

# 江戸時代の町なみ

江戸時代には下の地図のように、石川島と佃島しかない。もともと佃島は大川(現・隅田川)河口部の土が流されて積みあがっているところだった。江戸時代に大坂から来た漁師たちが、そこを埋め立てて島をつくり、佃島と名づけて住むようになってから、漁師町として知ら

れるようになった。石川島には江戸時代末期に日本初の造船所がつくられ、明治以降、この一帯が重工業の工場地帯として発達する足がかりとなった。

## 日本初の洋式造船所ができた島

### ① 石川島 (現・佃一〜二丁目)

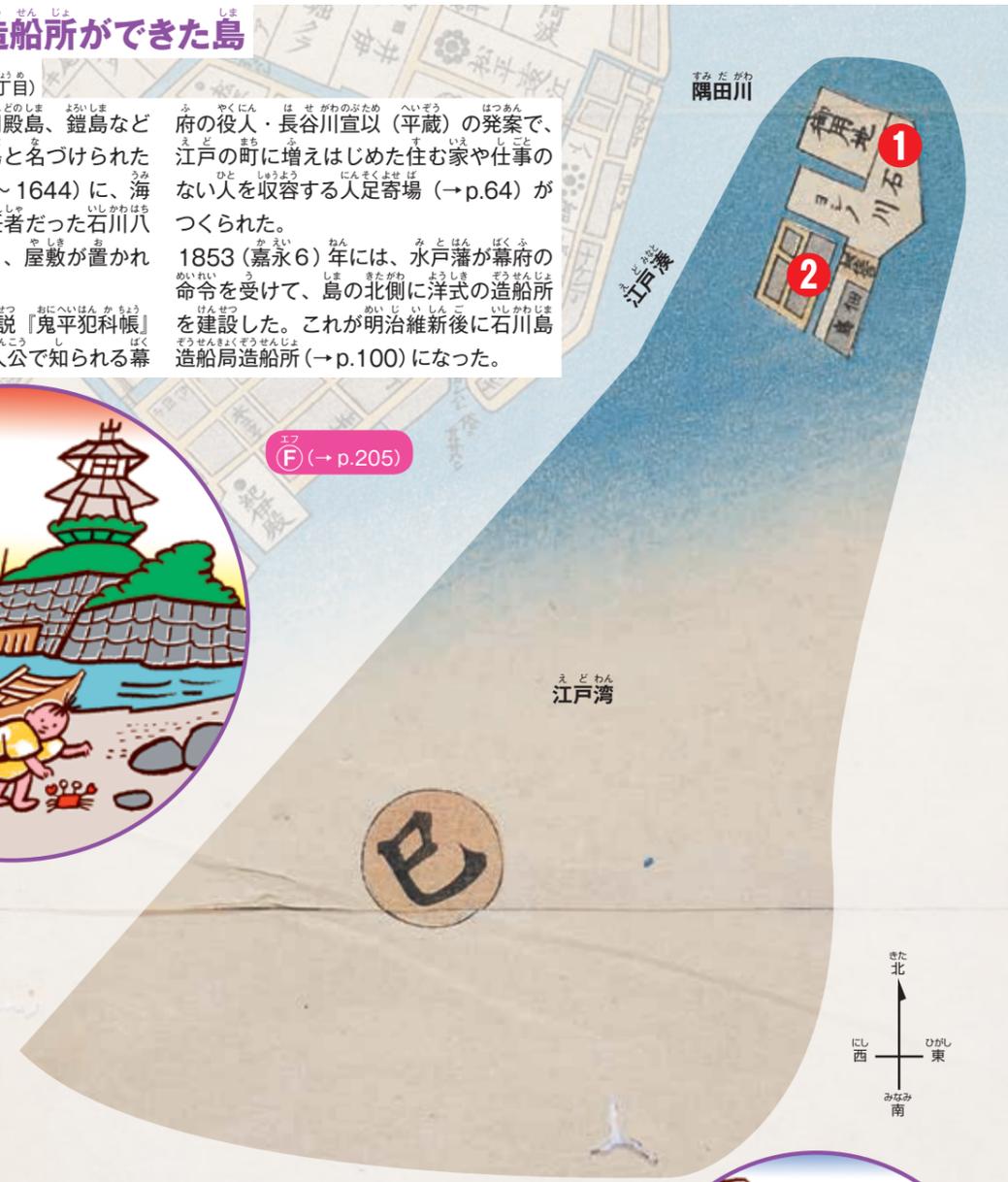
もともと森島、八左衛門殿島、鑑島などとよばれていた。石川島と名づけられたのは、寛永年間(1624~1644)に、海の交通を取りしめる責任者だった石川八左衛門重次の土地になり、屋敷が置かれたことにちなむ。

1790(寛政2)年、小説『鬼平犯科帳』(池波正太郎・著)の主人公で知られる幕

府の役人・長谷川宣以(平蔵)の発案で、江戸の町に増えはじめた住む家や仕事のない人を収容する人足寄場(→p.64)がつくられた。1853(嘉永6)年には、水戸藩が幕府の命令を受けて、島の北側に洋式の造船所を建設した。これが明治維新後に石川島造船局造船所(→p.100)になった。



① (→p.205)



なにもない~!

## 大坂の漁師がふるさとの名をつけた

### ② 佃島 (現・佃一丁目)

徳川家康は江戸に入城すると、摂津国西成郡佃村(現・大阪市西淀川区)の漁師34人を江戸によんだ。漁師たちは1644(正保元)年に大川(隅田川)河口の干潟をもらい、埋め立てて住み、ふるさとと同じ佃島と名づけた。漁師たちはここで漁を行い、白魚を將軍家に納め、魚河岸でも商売ができる。特別な権利を幕府から与えられていた。



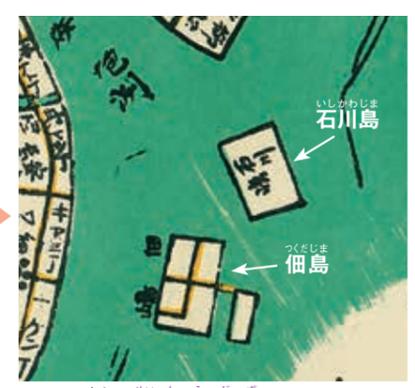
## 地図で見る 佃・月島と晴海ができるまで



これだよ。



1630年ごろ「寛永江戸図」※ 江戸初期  
地図の枠すれすれに、石川島らしき島が見える。



1772年「明和江戸図」江戸中期  
この時期になると、2つの島ははっきり示されている。



どうしてこの地図に石川島はないのかな?



1882年「東京方角一覽地図」明治初期  
罪人がとらえられていたため、石川島はえがかれていない。



1817年「伊能忠敬江戸実測図」江戸後期  
寛政の改革で人足寄場(→p.64)をつくるために、1790(寛政2)年に石川島と佃島の間が埋め立てられた。



1897年「東京一目新図」明治後期  
新佃島、月島一ノ地、月島二ノ地が完成した。

- 新佃島(現・佃二〜三丁目) 1896(明治29)年に完成。当時の町名は、新佃島西町一〜三丁目、新佃島東町一〜二丁目。
- 月島一ノ地埋め立て地(現・月島一〜四丁目) 1891(明治24)年に完成。当時の町名は月島通、月島西仲通、月島西河岸通、月島東仲通、月島東河岸通の各一〜六丁目。
- 月島二ノ地埋め立て地(現・勝どき一〜四丁目) 1894(明治27)年に完成。当時の町名は月島通、月島西仲通、月島西河岸通、月島東仲通、月島東河岸通の各七〜十一丁目。



1933年「模範新大東京全図」昭和初期  
三ノ地、四ノ地(晴海地区)まで完成した。ほぼ現在のすがたになっている。

- 月島三ノ地埋め立て地(現・勝どき五〜六丁目) 1913(大正2)年に完成。当時の町名は月島通、月島西仲通、月島西河岸通、月島東仲通、月島東河岸通の各十二丁目。
- 月島四ノ地埋め立て地(現・晴海一〜五丁目) 1931(昭和6)年完成。当時の町名は晴海町一〜六丁目。

※武州豊嶋郡江戸庄町